

ケンタッキーワンダー (つる性いんげん) と

門脇さんの加温促成栽培

高知県・土佐山田農業改良普及所

金 沢 伝

高知県では古くから、海岸の暖かい地帯を中心に矮性 (わい性) のいんげん (平豆と呼んでいる) の栽培が盛んであったが、その後ビニールハウスによる栽培が普及し、現在ではつる性のいんげんも加えて約300haの作付がある。

ここに紹介するケンタッキーワンダーはつる性のいんげんで、昭和35年頃露地栽培として産地作りが始まり、47年よりビニールハウスによる加温促成栽培が始まっている。ここでは、土佐山田町で昭和48年から栽培を続けている門脇四郎氏の技術を中心に記述する。

1. 育 苗

8cmのポリポットやジフィーポットに直まきし育苗し、つるが伸び始めた頃定植する方法と、本ばに直まきする方法がある。一般的には、育苗による方法がとられているので、そのあらましを説明する。

(1) 育苗用土

播 (は) 種の約1ヵ月前に、水田の表土とピートモスを2:1の割合で混合したものに、発酵乾ふん、過磷酸石灰を混合して堆積する。苗は10a当たり1,100本程度育てる必要があるためこれに要する鉢土の量は300ℓとなり、肥料は発酵乾ふん10kgと少量の過磷酸石灰を加える。

(2) 播 (は) 種から定植まで

10月1~5日頃が播種期で、よく選別した種子を1鉢当たり1粒を直まきする。播種後4~5日で発芽ぞろいとなり、20日前後でつるの伸びが旺盛となり始めるので、この頃を定植の適期とする。

育苗中の追肥は、ほとんど必要としないが、肥料不足による生育不良が認められたときは、薄い液肥を施して生育の回復をはかる。

2. 肥 料

豆類は一般的に肥料を多く要しないとされているが、この栽培では旺盛な側枝の発生が要求され、しかも8ヵ月にわたる長期の栽培であるため、多くの肥料を施している。門脇さんの施肥計画は次のとおりである。

このように、有機質肥料と緩効性化成肥料により設計が組まれており、Nで約47kgと、豆類としては多くの肥料が使用されている。

追肥は収穫始めの11月上旬に、園芸配合 (8・6・6) を10a当たり20kg施用し、その後は液肥と園芸配合を適宜施用して、草勢の維持をはかる。このときの施用基準をごく一般的に示すと、1ヵ月に3回の追肥とし、そのうち2回は液肥、1回は園芸配合とする。

この場合の1回当たり施用量は、液肥8kg、園芸配合20kgであるため、単純に計算すると液肥100kg、園芸配合120kgとなり、元肥と合わせるとN66.4kg・P53.8kg・K45.2kgとなって、他の多肥性果菜類に匹敵する肥料が施用されている。

3. 定植と誘引・整枝

播種後20日前後を経過し、主づるが勢いよく伸びはじめ

10a 当 たり 元 肥

肥 料 名	施用量	成 分 量			備 考
		N	P	K	
切りわら	1000kg	—	—	—	} 9月に施用 して耕起
苦土石灰	200	—	—	—	
けいふん	360	8.4	15.0	6.0	
油 粕	360	18.0	7.2	3.6	} 10月上~中旬 に施用
CDU たまご	120	14.4	14.4	14.4	
CDUs555	40	6.0	6.0	6.0	
合 計		46.8	42.6	30.0	

謹んで新年の
 ご祝詞を申し上げます
 昭和五拾四年元旦
 チッソ旭肥料株式会社

めた頃に定植する。

つるの伸長、側枝の発生が旺盛なため、密植すると落花が多くなり、収量が伸びない。したがって、冬期の弱くて、少ない光を有効に利用するため、畝幅を広くとって、下葉まで光が十分に当たるよう配慮する必要がある。

(1) 畝幅と株間

畝幅は180~200cmとし、株間は60cmの1条植えとする。したがって、3.3㎡当たりの植つけ本数は約3本と、粗植であるが、生育するにしたがって側枝が旺盛に発生し、12月頃になると畝一面に繁茂する。

(2) 誘引と整枝

畝の中央にキュウリネットを張り、これに誘引する。ネットは畝の上150cmの高さに張り、主づるはこのネットに巻きつきながら伸長する。定植後20~25日で、ネットの最上部から下15cm程度にまで達するため、このとき摘心をする。

側枝は、はじめ下位節より5~6本強い枝が発生し、主づると同じくネットに巻きつきながら生育する。この側枝も、ネットの最上部に達すると、おくれなよう早目に摘心する。

ケンタッキーワンダーは、栽培期間中に数回開花、結実の大きな波があり、当然収穫量に山・谷が生ずる。

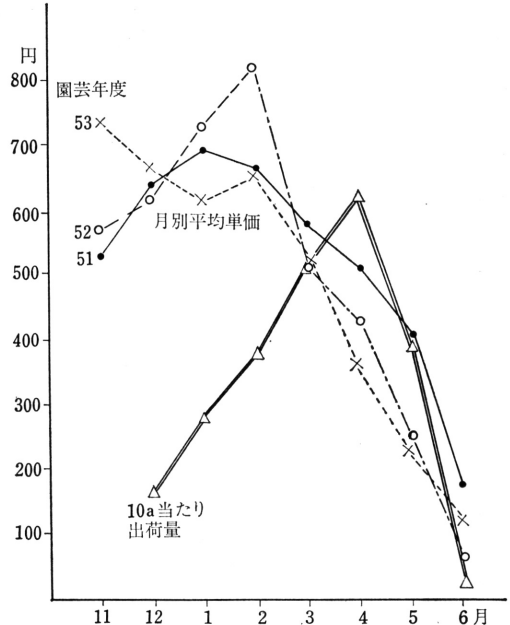
第1回目の山は20~25日間続き、このときになると、つるの伸長は停止する。山が過ぎて収量が少なくなり、収穫の谷に入ると草勢は回復して、再び旺盛に伸長をはじめ。このため、ますます過密となり、結実障害を起すため、1回目のピークを過ぎて収量が少なくなった頃、古葉を除去して、新しく伸びる側枝に光を多くあて、次に結実する花房の健全な発育を促す。

第2回目の収穫の山は、その後20~25日を経て現われ、以降、周期的にこれを繰り返すが、その谷は、第1回目の谷ほど深くはならない。したがって、収量の少な

ケンタッキーワンダーの結実



ケンタッキーワンダーの単価の動き



くなった頃摘葉し、伸びすぎたつるを整理しながら収穫を続ける。

4. 温度と灌水

日中は25~27℃となるよう保温と換気をし、夜間は結実期まで13~14℃とし、果実が肥大を始めると16℃を目標に加温する。

灌水は天候のよい日の午前中に行ない、5日に1回程度の間隔を基準とする。追肥は、この灌水と同時に施用する。

5. 収穫と経営規模

主づるは第5節から、側枝は第2節より各節位に花房をつけ、各花房には5個程度の花をつける。開花は、播種後45日前後より始まり、収穫は65日前後から始まる。この栽培で、経営規模を規制する要因は収穫作業で、夫婦2人の労働力では1,000㎡が限度となる。

単価は比較的安定しており、年による変動は少ないが4月以降は急落し、収量は4月がピークとなり、その後は、「さび病」の発生等による草勢の衰えによって低下し、10a 当たりの総出荷量は4.5t前後で、最盛期における1日当たりの出荷量は約120kgである。

あけましてお目出とうございませう。本年もどうかよろしくご指導ご鞭撻をお願い致します。一陽来福とか申しますが、たった一瞬の差で、こうも気持が変る。全く不思議なものです。この気持を、なんとか持続して行きたいものです。(K生)